

第66回応用物理学会春季学術講演会ランチョンセミナー

サイエンス & アーツ

日本の伝統美『術』



高谷 光

京都大学化学研究所
准教授

講演

『一化学者と文化財，伝統美術とのかかわり：
正倉院布から薬師寺東塔水煙まで，あれこれ』

講演者は文化財研究の専門家ではないが，不思議な縁で，正倉院所蔵品の染色技術の解明や薬師寺東塔水煙の分析等に関わるようになった。

新しいものでも300年，古いものでは創られてから1200年という文化財は素人目で見ても，現代の美術品，工芸品と比べて何の遜色もなく，人の心を捉えて離さない美しさや輝きを保っている。これらの多くが名前を残すこともない，当時の技術者の無私な精神から生み出されたものであることを考えると，翻って自らの科学者（化学者）としての仕事は，数百年後，1000年後に同様に価値あるものとして未来人の目に留まるだろうかとの複雑な心境となる。

本講演では，主にSPRING-8での放射光を利用した文化財分析について，国宝の扱いや歴史解釈等，文字にしにくい裏話なども交えてご紹介したいと思います。1000年前にモノづくりの最先端にいた我々の祖先と，今の時代に科学者として生きる自分とを重ね合わせて色々考えるきっかけになれば望外の喜びです。